

レファレンスセンター関連会議 「カンピロバクター」

秋田県健康環境センター

広島市衛生研究所

山口県環境保健センター

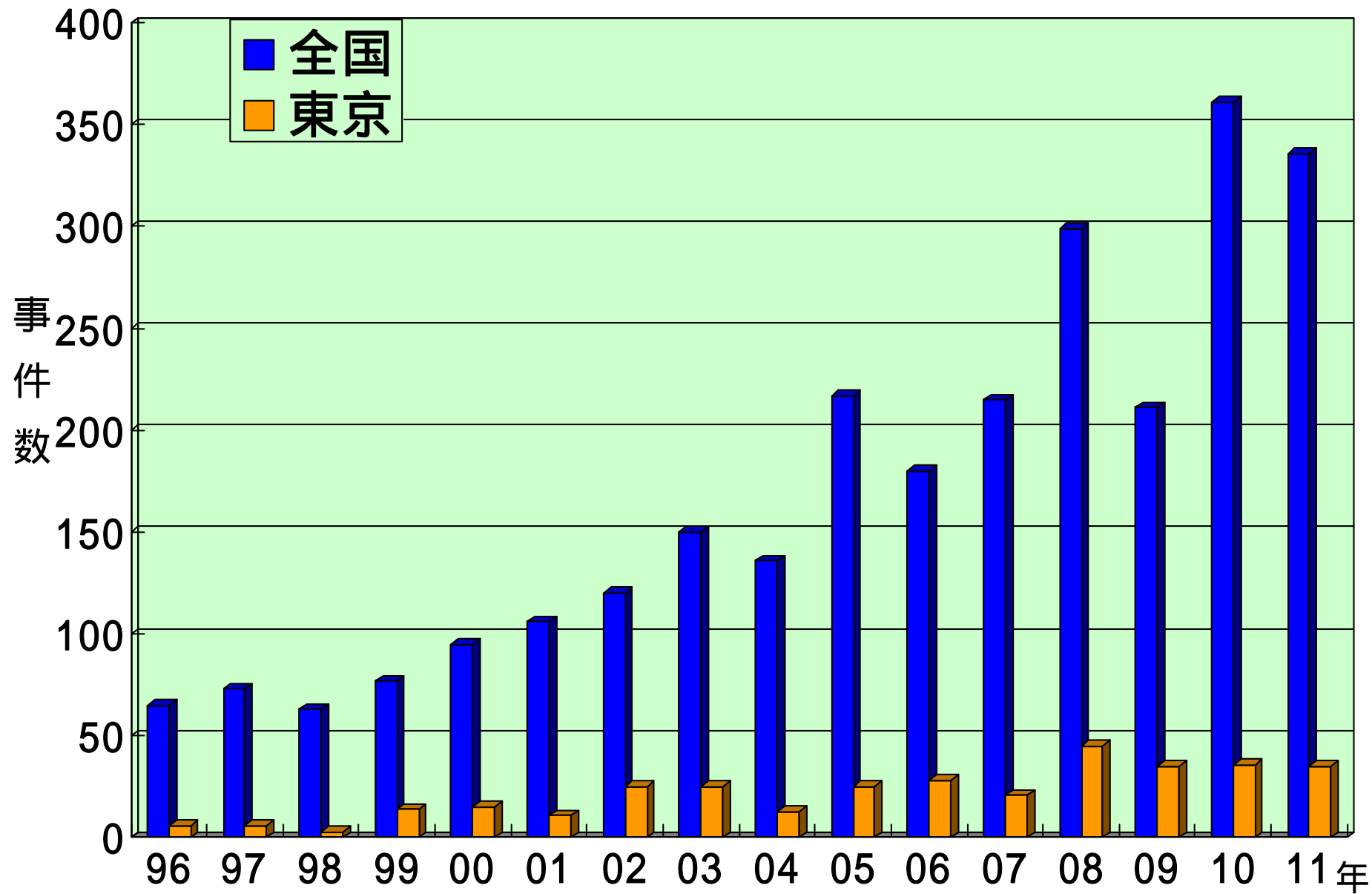
国立医薬品食品衛生研究所

大阪府立公衆衛生研究所

熊本県保健環境科学研究所

東京都健康安全研究センター

愛知県衛生研究所



カンピロバクター食中毒の発生状況(患者数2名以上の事例)

希少感染症診断技術向事業

カンピロバクター・レファレンス委員会

目的および方法:

1. Lior 法による診断用血清(30種類)の作成と型別
2. 市販血清を使ったPenner 法の検討
3. 薬剤耐性菌の出現状況把握

カンピロバクターの血清型別法

	Lior 法 自家調製	Penner 法 市販品(デンカ生研)
方法	スライド凝集反応	受身血球凝集反応
標的抗原	易熱性抗原 (H, K様抗原?)	耐熱性菌体抗原 (LOS)
血清群数	30(原法:118)	25(原法:57)
操作性	容易	煩雑
判定	やや困難	容易
価格	安価	高価(1検体 2000円)

各支部センターにおける型別菌株数(2011年)

支部センター	集団由来 菌株数	(事件数)	散発 菌株数	食肉 菌株数	合計
秋田県健康環境センター	1	(1)	53	16	70
東京都健康安全研究センター	113	(26)	108	0	221
愛知県衛生研究所	50	(11)	43	0	93
大阪府立公衆衛生研究所	68	(28)	74	0	142
広島市衛生研究所	14	(3)	68	11	93
山口県環境保健センター	6	(2)	21	11	38
熊本県保健環境科学研究所	17	(9)	1	0	18
合計	269	(80)	368	38	675

C. jejuni 散発事例由来株のLior血清型別成績 (全国・2011年)

血清型	秋田	東京	愛知	大阪	広島	山口	熊本	合計	(%)
UO4	19	22	13	23	17	9	0	103	(28.7)
UO7	0	9	2	6	3	0	0	20	(5.6)
UO1	0	7	0	2	7	2	0	18	(5.0)
UO11	2	3	2	1	2	1	0	11	(3.1)
UO28	2	3	1	2	0	2	0	10	(2.8)
UO36	0	9	0	0	1	0	0	10	(2.8)
TCK1	0	6	1	0	3	0	0	10	(2.8)
その他*	7	23	4	9	11	6	0	60	(16.7)
小計	30	83	23	43	44	20	0	243	
(%)	(57.7)	(76.9)	(57.5)	(61.4)	(64.7)	(100)	(0.0)	(67.4)	
複数血清	4	2	7	0	4	0	0	17	(4.7)
型別不能	18	23	10	27	20	0	1	99	(27.6)
合計	52	108	40	70	68	20	1	359	(100)

* 21種類

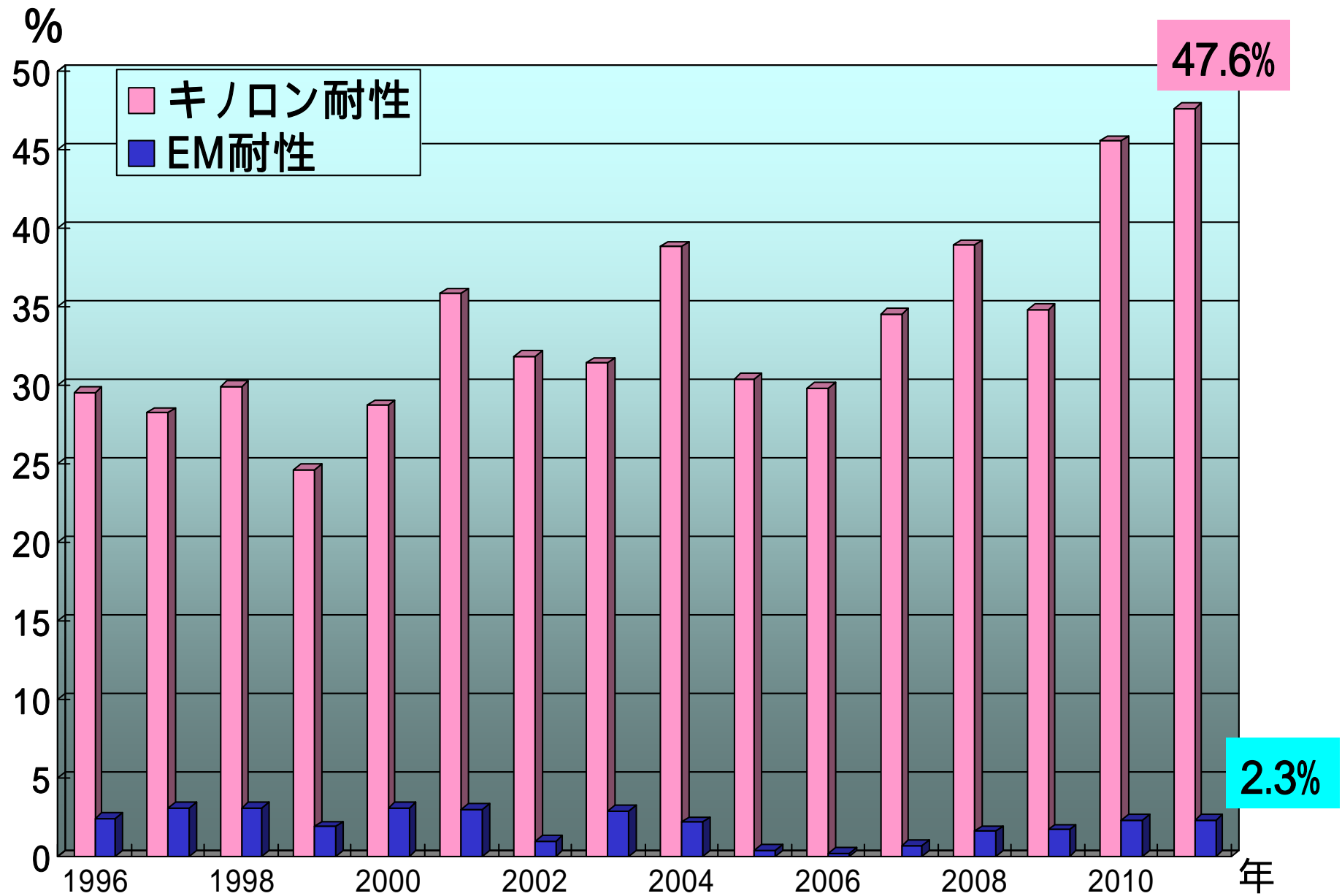
C. jejuni 散発事例由来株の血清型推移

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1位	LIO 4	LIO 4	LIO 4	LIO4	LIO4
2位	LIO 11	LIO 28	LIO 7	LIO28	LIO7
3位	LIO 10	LIO 11	LIO 1	LIO1	LIO1
4位	LIO 7	LIO 1	LIO 28	LIO7	LIO11
5位	LIO 1	TCK 12	LIO 11	LIO11	LIO28,LIO36,TCK1

Penner 法による *C. jejuni* 散発事例由来株の型別推移(全国)

血清型	2009年	2010年	2011年	合計	(%)
A群	10	14	12	36	(2.8)
B群	27	78	49	154	(12.1)
C群	23	28	28	79	(6.2)
D群	58	54	42	154	(12.1)
G群	11	10	9	30	(2.4)
J群	13	9	8	30	(2.4)
O群	19	26	20	65	(5.1)
R群	18	9	4	31	(2.4)
Y群	26	22	12	60	(4.7)
その他*	28	33	42	103	(8.1)
小計	233	283	226	742	
(%)	(54.2)	(61.7)	(58.7)	(58.3)	
複数血清	3	1	9	13	(1.0)
型別不能	194	175	150	519	(40.7)
合計	430	459	385	1274	(100.0)

*11種類



キノロン剤およびエリスロマイシン耐性株の出現状況
 キノロン耐性: NFLX・OFLX・CPFX・NA耐性

まとめ

- *C. jejuni* 359株を対象にLior法で検討した結果、検出される血清型は、LIO 4, LIO 7, LIO 1の順に多く大きな年次別変化は認められなかった。
- Lior 法 (359株) では28種類の単独血清 (67.4%)、複数血清 (4.7%) に型別され、型別率は72.1%であった。
- Penner 法 (385株) では20種類の単独血清 (58.7%)、複数血清 (2.3%) に型別され、型別率は61.0%であった。
- 2011年の*C. jejuni* キノロン耐性菌の出現率は47.6%で、増加傾向であった。